

『市民の命を守る』、この一点で共同を！

# 地域医療再生のカギ「新中核病院」実現のために



# 鈴木

- 1944年（昭和19年）旧下館市樋口に誕生。68歳。
- 下館一高卒業、日本ハム茨城工場入社、上京後、氷川下セツルメント病院勤務
- 昭和50年下館市議初当選（当時30歳）以後筑西市まで通算10回当選
- 筑西市樋口973-5

**市民の味方、現場主義  
発言トップの実力派**

市議40年のキャリア——暮らしを守るプロです

地域医療再生計画は県の責任でつくられます。地元住民の立場に立った計画にするには、オール筑西で要望をしつかり県に届けなければなりません。

地域や立場のちがいを超え、市民、行政、医療関係者が一丸となるよう力の限り働きます。

**県に役割果たさせるために  
問われているのは  
「県議の実行力」です**

## 鈴木さとし 走る

**市民病院の売却にストップ**

市民病院の民間売却の方針が出されたとき、「医療に行政が責任を持つべき」として先頭に立つて世論にうったえストップさせました。

**地域医療再生に東奔西走**

新中核病院が何度も行きづまり、そのたびに医師会や筑波大、自治医大など関係者との意見交換、県や厚労省への要請をしてきました。

**救命救急センター設置を展望し  
医療拠点をまちづくりの核に**

新中核病院とともに、まだ私たちの医療圏にはない救命救急センターを展望する計画が必要です。また医療施設はまちづくりの拠点でもあり、市の取り組みを県が応援するようはたらきかけます。



厚労省から直接情報をとる 衆議院議員会館



大震災前の市民病院で

さとし 党派をこえて **実力派** を県議会に

(部内資料)



# 鈴木さとしの心 多くの人に親しまれるヒミツ

ブレずに市民ひとすじ40年—その姿が共感を呼んでいます

**Q** 鈴木さんは「共産党らしくない共産党」と親しみをこめて呼ばれていますが…?

**A** 一致できることは自民党の人とも共同します  
誰とでも力を合わせることが認められてうれしい

**Q** 鈴木さんはどんな人かと話題になるときに、よく「共産党らしくない共産党」だと親しみをこめて呼んでいる人が多いようですが、自分ではどう思っていますか？

鈴木 そう呼ばれているようですね。私はまじめに働いている市民が苦しめられることは許せない、そして政治が市民のためになるようにといつも心がけてきました。地域医療再生のように、その一点で一致できることがあれば、党派が違っていても、たとえば自民党の人とも共同して取り組んできました。当たり前のことだと思いますが、市民のためになれば誰とでもいっしょにそういう活動をコツコツしてきたことが好意的に受け止めてもらえるのは、とってもうれしいことです。



困っている人をほっとけない

## 解決した相談 5000件

どんな相談にも、「ナシのつぶてにしない」がモットーです。30歳で下館市議会議員となり、相談が寄せられると、まず現場に直行し、行政の担当者には実際の様子を見てもらい、解決にあたってきました。最も多いのは、暮らしの中の困りごとです。長い不景気の中でも、最近は特に生死を考えるような深刻なものが増えていきます。困っている人はほっとけない性格です。お世話になっている地域の皆さんへの恩返しのもりで、これからもがんばります。



### 県のお金の使い方を「大型開発」優先から「命・暮らし」優先に切り替えて

地域医療

新中核病院の実現で救急体制の確立と、それによるまちづくりの支援

子育て支援

少人数学級でどの子にも目が行き届く教育、若者の雇用対策の強化、市の人口減少対策のバックアップ

地域活性化

地域を壊すTPPはストップさせ、不景気を深刻にする消費税値上げ阻止と農業、中小業者の販売支援の充実、原発ゼロ、そして地域の自然エネルギー活用の支援強化